

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取り組みについて

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の状況を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

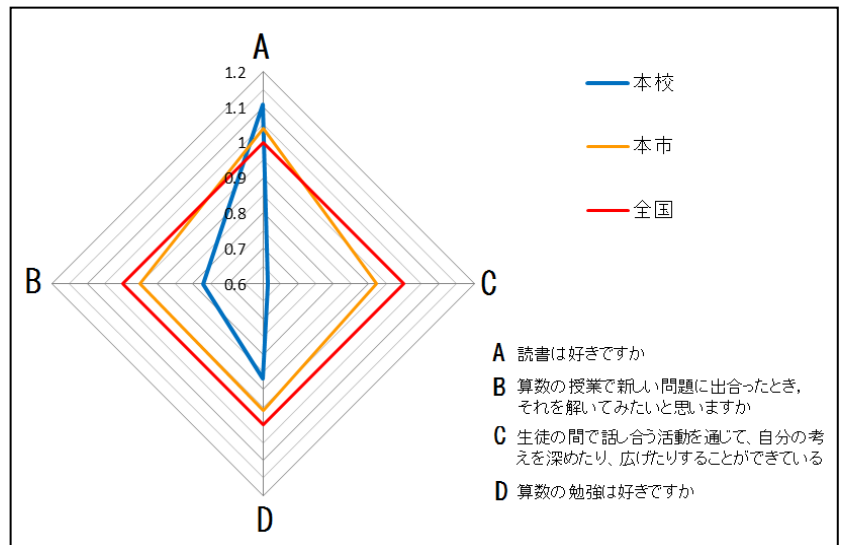
1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語 A 主に「知識」に関する問題	全国平均正答率を下回っている	・文章のつながりをとらえたり、構成を読み取ったりする技術的な力はポイントが高かったが、想像力を働かせて読む点に関しては課題が残った。
国語 B 主に「活用」に関する問題	全国平均正答率を下回っている	・読む能力や言語についての知識・理解・技能については、ポイントが高かった。 ・記述式の問題に課題があり、根拠を示しながら自分の考えを書くことを習慣化しなければならない。
算数 A 主に「知識」に関する問題	全国平均正答率を下回っている	・計算問題についての正答率が高かったが、面積、体積を求める問題や、図形に関する問題に課題があった。図から解答に向けてのイメージをつくりだすことができるよう学習に取り組む必要がある。
算数 B 主に「活用」に関する問題	全国平均正答率を下回っている	・活用を問う問題に対して、既習の内容をどのように当てはめたらよいか悩む傾向にあり、結果的に記述して答える問題に対しては無回答率が高かった。基礎を固めた上で、様々な活用問題にふれるようになる必要がある。

② 学校における学習状況に関する調査結果

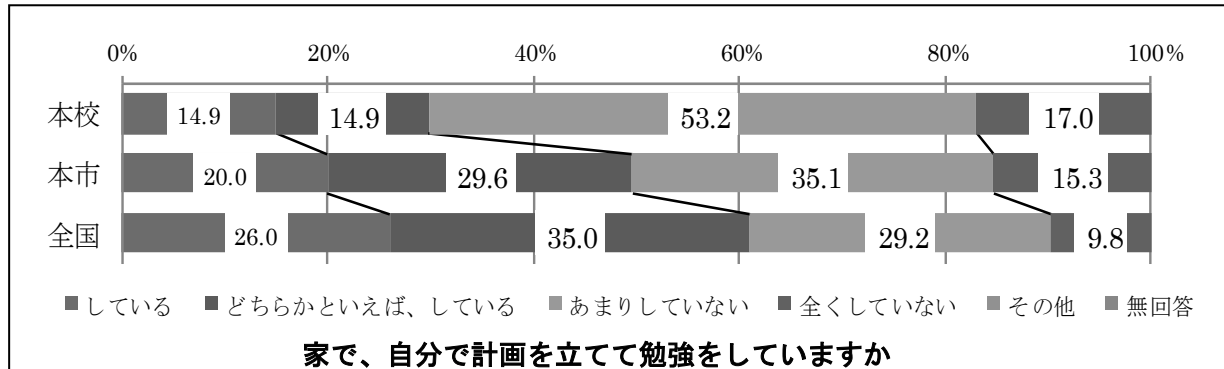
- ・ 読書が好きな児童が多く、全国や市の平均を上回っている。読書ボランティアの方々の読み聞かせや、図書館の整備などからも良い影響を受けていると考えられる。
- ・ 話し合いについては、友達と考えを練り合い、より深い理解へとつながるような話し合いになっていないことが分かる。自分の考えや意見を発表することは得意である一方、友達の話や意見を最後まで聞くことが苦手という調査結果も出ており、話し合いが深まらない大きな要因になっていると考えられる。
- ・ 算数の好き嫌いが二極化しており、算数Bの得点率でも同じような二極化の結果が表れている。新しい問題に挑戦したいと思わない子供も多く、算数の楽しさを実感できるような取り組みをしていく必要がある。



2. 家庭生活習慣などに関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・ 読書の時間が全国や市の値に比べて長い。これは、読書が好きな子供が多い結果ともリンクしており、学校で読書の時間をしっかりと確保してきたことにも関係していると考えられる。
- ・ 学校の授業以外での勉強時間が、全国や市の値に比べてかなり短い。予習をしている子供が少ないことも、勉強時間と関係があると考えられる。自分で計画を立てて勉強をしている子供も少なく、この計画がないために決まった時間を勉強に充てていない子供が多いのだと考えられる。



② 生活習慣に関する調査結果と分析

- ・ 子供が家で過ごす多くの時間、テレビを見たり、ゲームをしたりしていることが分かる。中でも4時間以上テレビやビデオを見る子供が全国の倍以上の割合となっている。最も改善が必要な生活習慣だと考えられる。
- ・ 約3割の子供が「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対し「当てはまらない」「やや当てはまらない」と回答している。このような自尊心の低さは、学習面、生活面での意欲と大いに関係があると考えられる。
- ・ 地域行事への参加率は全国では上昇傾向にあるが、本校では低い値で推移している。家族以外の地域の大人との結びつきが低下している姿が想像される。
- ・ 悩み事の相談相手として「先生」と答えた子供の割合が全国の2倍おり、家族と相談する児童の割合も全国を上回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施

- ・ 学力向上に向けての計画の共通理解と、学年、学校での取組内容の確認（PDS）

◎ 学力向上のための特設時間の実施

- ・ 全校でのチャレンジタイム（毎朝8:35～8:50）の実施
- ・ 小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備。

◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・ チャレンジタイムの学習や長期休業日の宿題として過去問題やアシストシート、活用力を高めるワークを活用する。
- ・ 単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付ける。

◎ 「書く」ことを習慣化

- ・ 学習のめあてとまとめ、ふりかえりを素早く書くことができるようにする。
- ・ 国語や算数に限らず、自分の考えを理由を含めて書き、伝えるという活動を積極的に取り入れる。

② 家庭生活習慣などに対する取組

◎ 宿題のスタンダード化

- ・ 自主学習ノートの活用（予習・復習コースと発展学習コースの併用）
- ・ 家庭学習時間の設定
- ・ 「塔野小家庭学習の手引き」の作成・実施
- ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
- ・ 長期休業日の宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用

◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・ 学年便り、学校便り、学級懇談会